



京ヶ峰の四季

第49号

2015年新春号



元旦 幸田町三村神社にて

時代がどう変わろうとも、頭と心を使い、
患者さまと心でつながっていくことの大切さは変わりません。
本年も「明るく」「仲良く」「元気よく」をモットーにしてまいります。

平成27年の年が明けました。あけましておめでとうございます。

今年^{ひつじ}は未年ということで、私も何度目かの年男です。一説^{ひつじ}に未は家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味するそうです。従順で温和、情に厚く、人との対立や争いを嫌う傾向があるとも言いますが、今年一年、私自身も含めてそういうふう^{ひつじ}に過ごしたいと願っております。

しかしながら、一方で精神医療をめぐる情勢は相変わらずであり、厳しい状況が続くことには変わりはありません。ここ10年ばかり制度も法律もがんじがらめに縛られており、それらが実行されようとしている今、本年こそ勝負の年とも言えます。それをどう乗り切っていくかが私たちに求められているわけですが、結局は私たち自身の頭と心を使い、ひたすら頑張っていくしかないというのが私の結論です。頭を使うとは、患者さまにどうい^{ひつじ}うことをしてあげたら早くよくなっていただけるのかを考え抜くことであり、心を使うとは、患者さまに真心でもって接し、実行し、患者さまと心でつながっていくことです。時代がどう変わろうとも、こうしたことを心がけていけば、まちがいなく地域の精神医療の発展に貢献していくことができると確信しております。

今年に限ったことではありませんが、私たち京ヶ峰岡田病院が掲げる3つのモットー、「明るく」「仲良く」「元気よく」を常に念頭におきながら、職員一同が力を合わせ、楽しく仕事をしたいと思っております。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



京ヶ峰岡田病院
院長 岡田 庸男

基本理念

一人ひとりの患者さまの幸せのために
～ For the Patients ～

変わっていくこと、変わらないこと、変えないこと

～精神科における「イ・ショク・ジュウ」等～

医局長 滝川 英昭



時代が流れて、2003年(平成15年)新春号で創刊したこの広報誌も今回、第49号で満12歳。ちょうど年齢の4倍のペースで発行を重ねるので、偶然にも号数が私の年齢と同じになりそうです。

連載や持ち回り執筆で各疾患について順次、触れて掘り下げていく方法を積極的には採っていないために、広報誌上で専門知識の一端を垣間見ることは少ないと思います。確か当院のホームページ(正確に書けばウェブサイト)上でも、豆知識のようなカテゴリーの充実はほとんどなされていません。広報委員長の立場としても「これでいいのだ」と強調はしませんが、その代わりに今回、日頃の診療を通じて感じていることをこの誌面にて少し取り扱って、ご覧の皆様のご今までの認識が若干でも広がるように願っています。

スマホ等の便利な機器を使って診察時までの経過や「待合室なう」な心境を克明に綴って準備し、あいさつ後に画面を見せてくださる方も徐々に増えてきました。次回の受診日(可能であれば診察時刻)を即座に入力する慣れた手付きにも違和感を覚えなくなっています。この文明発達にはさらに進んで、同意を得て電子カルテとの(一方向性の)通信も技術的にはすでに容易でしょう。カルテ画面への文章入力の都度、内容を確認しながら「診療を共有する」時代でもあると言えそうです。従来「3時間待ちの3分診療」とか、その3分でさえも画面やキーボードばかりでほとんど担当医が顔を見てくれずに終わってしまうとの非難からは、脱却するのがすでに当然であって、その先の勝負に突入している時代です。

診察の待ち時間短縮の工夫や、個々人の診療に適した医療情報の提供のあり方は、この先も大きく変わり続けると思います。新聞の切り抜きだけでなく、ネットでこんな記事を見つけたと画面に映し出された内容を踏まえて「それで私(あなた)の場合は…」と補足説明し合ったりする臨機応変な判断も求められ、その変化は強いものですから、診療提供側の「変わらなきゃ」が改めて求められているように痛感もします。

その一方で、変わらないことの基本は、特に精神科で重要と考えら

れる「面接」における、その姿勢でしょう。先のネット活用の利便さを受け止めたくえでも、やはり「丁寧に聴いて、求めに応じた適切な助言に努める」ことに尽きます。しかし同時に回答強迫へと陥らない注意も忘れてはなりません。さらには入室者の選定やその順序、席の配置にさえも配慮すべきです。医療の標準化が当然のように叫ばれているなかでさえも、一定の水準を保ったうえでならば精神科には医師個人の特性(個性)がもう少し目立っても良いと考えています。本来の力量を取り戻しつつある回復過程の方は、趣味や交友関係の話題に及ぶ余裕も生じてきます。「〇〇先生だからこんな話もしちゃうけど」として率直で、時にユニークな質問を浴びせられているのですが、そういうのも懐の広さだと信じてエネルギーに変換しています。「みんなの厳しい話をたくさん聴いていて(先生は)ストレスがたまりませんか?」といった普遍的な問い掛けへの回答は端的には難しいものですが、知恵を絞ってなんとか明日へのヒントを伝えたいという課題設定が私の手法の根幹を成しているように感じます。ただ、例えば話や語呂合わせのような秘訣の伝授を多用しようと策におぼれると、ますます「説明がややこしくなって分からない」という反省点は続いています。これは変わりにくいことの類です。

最後に、変えないことの代表は基本理念を踏まえた診療姿勢を貫いて、どのような場面であっても全力を尽くせるように努めるべき態度です。生活をしていく基礎である「衣食住」が安定するようにチーム医療で取り組み、その際には、精神科ならではの「**医・色・柔**」の特徴を肝に銘じて、日々の診療に心掛けます。



イ 医 医療の必要性に基づいて、医師の責任性や立場性が精神科ではいっそう強いと考えています。

ショク 色 来院者(=本人や家族)の持つ多様な特色に幅広く応じる創意工夫が不可欠と考えています。

ジュウ 柔 事前相談を含むすべての対応において、臨機応変で柔軟な発想が大切であると考えています。

表彰者紹介

当院職員が愛知県精神保健福祉協会長より表彰を受けましたので、ここに報告させていただきます。



平成26年12月13日(土)刈谷市総合文化センター・アイリスにて「平成26年度こころの健康フェスティバルあいち」が開催されました。式典の中で、PSW部次長の佐野明子が愛知県精神保健福祉協会長表彰(愛知県精神保健福祉士協会 推薦)を受けました。



PSW部次長 佐野 明子



栄養士から 季節のおすすめ

つい先日お正月を迎えたばかりな気がしていましたが、あっという間に1月も終わり…すぐに節分です。節分とは本来、字に表されるように「季節」の「分」かれ目であり、各季節の始まりの日である立春・立夏・立秋・立冬の前日のこと。そう、実は年に4回あるのです。では、なぜ立春前日の節分だけ有名なのでしょう? 日本では古くから一年の始まりは立春とされており、前日の節分を大みそかと同様に大切にしてきたからだと考えられます。その日に旧年中の厄や災難を祓って新しい年を迎えるということで、厄除け=鬼に豆をまきやっつけるようになったので

す。「鬼の目=魔目(まめ)」に豆を投げつけて「魔を滅する=魔滅(まめ)」に通じる一と語呂合わせのようでちょっとおもしろいですね。鬼は外!福は内!のかけ声とともに豆をまき、年の数だけ福豆を食べて同じ数の福を取り入れます。さらに関西では、恵方巻きや丸かぶり寿司などと呼ばれる太巻き寿司を、恵方を向き丸ごと1本無言で食べると縁起が良いという風習があります。他にも各地で、鬼が嫌う 終 鱈(ヒイラギの枝に焼いたイワシの頭を刺したものを)を玄関先に飾る、節分そば(昔はこれを年越しそばと呼んでいたようです)を食べるなどもあるようです。

栄養部 近藤



行事報告



希望会ゲートボール大会

2014年11月7日(金)

名古屋市・庄内緑地公園にて。患者さま6人1チームで出場し、ベスト8進出!



文化展

2014年11月8日(土)~12日(水)

院内サニー棟にて。患者さま、職員などから200点を超える出展があり、観覧者で連日賑わいました。



坂崎学区文化芸術祭

2014年11月23日(日)

幸田町・坂崎小学校にて。今年も患者さまの作品展や、よさこい(踊り)で参加しました。



希望展

2014年11月26日(水)~30日(日)

名古屋市・愛知県芸術文化センターにて。20施設から218点が出展され、当院からは16点を出品しました。27日には、出品者を中心に観覧ツアーを行いました。



クリスマス演芸会

2014年12月22日(月)

院内京ヶ峰ホールにて。患者さまの合唱や、職員の出し物、カラオケでお得意の歌の披露など、楽しい時間を過ごすことができました。



餅つき

2014年12月26日(金)

お正月用のお餅を20臼分ぐらい、患者さまや院長・職員・院内保育所の園児、みんなで楽しくペタンペタンつきました。



五社巡り

2015年1月1日(木)

例年通り元旦の午前6時から、患者さま約30名、職員と家族約50名で幸田町内の五社へ初詣に繰り出しました。降雪が危惧されましたが、比較的暖かな元旦の朝となりました。



こうた凧揚げ祭り

2015年1月11日(日)

幸田町の菱池地内にて。快晴と良風に恵まれ、絶好の凧あげ日和でしたが、当院の凧は…。



南病棟 行事食

2014年11月19日(水)

メニュー：海鮮丼、茶碗蒸し、清汁、クリームぜんざい



西病棟 行事食

2014年12月2日(火)

メニュー：ロコモコ丼、ポキ(マグロとアボカドのサラダ)、デザート、カフェオレ



おすすめコーナー

【今号のおすすめ】NHK番組「サラメシ」

サラメシという番組はNHKで放送されている、働く大人(サラリーマン)のお昼ご飯(メシ)にスポットを当てた番組です。

俳優の中井貴一さんがナレーターとしてつぶやきながら「○○さんにお昼が来たー!!」と、その人の職業とお昼ごはんを紹介してくれるといった感じの番組です。

お昼ごはんを通して、仕事に対する情熱やこだわりなどを見ることができます。例えば、漁師さんのお昼ごはんには、れんこんや竹輪などの穴が空いているものは、網から魚が逃げってしまうことを連想させるため、縁起が悪いので食材には使用しないと、富士山の荷物の運搬に携わる人達のお昼ごはんは、運搬時間が長いので、簡単に手で食べられるものが多いなど、いろんな職業に適したお昼ごはんが見られます。

栄養部 長崎

NHK総合テレビ 毎週月曜日夜10時55分より放送

※次号は、看護部の小田さんが担当します。宜しくお願いします。



編集
後記

まだまだ寒さが続きます…というか、これからがいよいよ本番です。特にインフルエンザには気をつけましょう。手洗い、うがいが大事です。今年も元気に一日一日を楽しく過ごしましょう。

看護部・角谷(力)

